

# Book Review

## 摂食・嚥下障害検査のための 内視鏡の使い方 60分 DVDビデオ付き

戸原 玄・武原 格・野原幹司 編集



Reviewer

植松 宏

(東京医科歯科大学高齢者歯科学分野)

A5判, 72頁  
定価 8,820円  
(本体 8,400円+税 5%)  
医歯薬出版刊



冊子の部分は2色刷の72ページでよくまとまっている。嚥下内視鏡検査の変遷から始まり、摂食・嚥下リハビリテーションに必要な局所解剖、障害をもたらす病変などについての全般的な必須知識が説明されている。DVDを見るだけでは手技の理解に偏るので、理解に必要な知識を補う目的で背景を説明しているのであろう。DVDを見終わった後で全体に目を通すと、知識が整理されてよいと思う。

初心者は最初、DVDを全編再生で一通り見て、概要をつかむのが賢明である。その後で、必要な部分を見ればよい。DVDの利点は、目で見て理解できるので難しい操作も容易に理解できる点である。たとえば、器具についての説明では、操作法など当然とは思わが具体的で、書物とは比較にならないほどわかりやすい。消毒法なども、実際に作業している場面が見られるので、ただちに应用可能である。消毒は最も日常的な仕事なのに、なかなか書物を読んだだけでは正しく理解できない作業であるから助かる。

動画では、口腔乾燥のため食塊形成

がうまくできず食道入口部付近でばらけている映像や、咀嚼不全により同様に食塊がばらけている映像を見て、準備期は大事なのだと納得できた。何と言っても咀嚼された結果を目の当たりにするのであるから、説得力は大きい。一方、臨場感だけでなく、視覚的な理解という面で、VEでは画像のゆがみや被写界深度が深いことなどが、映像を見てはじめてよく理解できる部分がある。これも映像の利点を十分生かした構成と言えよう。

緒言に、摂食・嚥下障害の理解は動画を用いるのが一番の近道であるため、ふんだんに盛り込まれた動画を、実際に自分がVEを行った際に得られる映像のイメージができるようになるまで繰り返し見てほしいと書いてある。たしかに、この映像を何度か見ると、嚥下内視鏡検査を自分で行っているような気になる。内視鏡の操作、鼻孔への挿入と観察、経口摂取に伴う食物の観察がイメージできる。いくら入門書をたくさん読んでも、このようにリアルなイメージは身につかない。動画のおかげである。すぐにも自分で

やってみたくなる。ファイバースコープの操作法は実際に指導者に教わっているかのようなわかりやすさである。咳払いの効果や、交互嚥下の効果も目で見て確認できる。通過の悪いほうを向かせるとよい理由が理解できる。たとえ自分でVFを使う予定がなくても、病態の観察を目的に見ても役に立つであろう。これらの場面は今後の患者指導に大いに参考になるからである。

随所で適切な解説が加えられるが、ボリュームで音量を小さくして動画だけを見ると、全く印象が異なる。実感するのは、見る目はすぐには養えないということである。観察のポイントを押さえておかないと「見ても見えない」結果となる。VEの合併症については類書であまり触れられていないので参考になる。本書はVEに特化した書籍としたため、あえて摂食・嚥下障害に対する基本的な知識、間接訓練法、代償的嚥下法、食事介助方法の詳細などについては割愛してある。そのような知識や技術に関しては、他書を参照して十分に身につけてから、実際の臨床に臨んでいただきたい。